

「板橋区一般廃棄物処理基本計画（第3次）」素案
パブリックコメント（意見）と区の方考え方について（案）

- ◎募集期間 平成23年12月10日（土）から平成23年12月26日（月）まで
◎件数 2名（4件）

【第5章 1（4）重点施策について】

番号	意見の概要	区の方考え方
1	新たにトレイ・ボトル類を集積所収集の分別対象品目に追加するとしているが、不法投棄及び不分別によって、集積所に近接する家庭の負担が増えることが想定される。これまでも分別細分化により、一方的に集積所隣接家庭の負担が増している。	新たにトレイ・ボトル類の分別を実施する際には、広報いたばしを始め、資源とごみの分け方・出し方チラシや、ごみ・リサイクルハンドブックの配布等、様々な方法により周知していきます。また、回収箱の見直し等を図り、集積所隣接家庭の負担を考慮した排出方法の導入を目指すとともに、不法投棄等への対策としてふれあい指導により一層力を入れていきます。
2	なるべくシンプルな収集形態の方が、経済的にもよいのではないかと。分別細分化がリサイクル・環境に実態上資するものかを充分検討し、名目上のきれいごとにとられないよう施策を実施していただきたい。	今回公表した計画素案を取りまとめる際には、資源環境審議会等で検討を行いました。その検討結果を踏まえ、①リサイクル率が向上する、②ごみ焼却に伴う二酸化炭素（CO ₂ ）の発生量が減少する、③費用が比較的少ない等の理由により、新たにトレイ・ボトル類の分別を実施するという方向を示しました。
3	家庭ごみ有料化を実施すると、集積所における不法投棄が一層増加することが想定される。したがって、集積所に近接する家庭の負担が軽減されるような視点で、具体策を示していただきたい。	不法投棄対策としては、区民周知の徹底、ふれあい指導や不法投棄監視パトロールの強化等、多種・広範囲の対策を行う必要があると考えています。また、他区への流出（越境ごみ）も懸念されるため、他区との連携・協調を図っていく予定です。
4	日本は高齢化社会を迎え始めており、大人用紙おむつの生産量は、今後大幅に増加する見込みである。紙おむつごみは水分を多く含んでいるので、清掃工場の焼却効率が下がる要因になる。すでに紙おむつのリサイクル技術が開発され、分別回収を実施した自治体（福岡県大木町）もあるので、対策が必要ではないか。	平成22年度に行ったごみの組成分析調査によると、可燃ごみは厨芥（生ごみ）類・紙類・プラスチック類の割合が高くなっています。この結果を踏まえ、重点施策としてトレイ・ボトル類の分別実施を始め、生ごみの減量・資源化施策、及び紙類の資源化施策の推進等を掲げています。紙おむつは紙類に含まれますが、現在のところ構成割合等を考慮して、雑がみ類の分別徹底を推進していきます。その後、紙おむつ対策を検討します。